

愛は南から――

これまでの町史とは別物

一般の方にぜひ読んでもらいたい

愛南町史編纂委員会委員 藤田儲三しよぞうさん



およそ3年をかけて完成した愛南町史。希望者負担金 5,000 円（町内在住の方は 2,500 円）で生涯学習課で配付しているほか、各公民館や御荘文化センターにてご覧いただけます。

6月に発行された愛南町史。町の一体感を作り出し、誇りと愛着を持った町づくりの推進に役立てることを目的に編纂されました。

町史編纂の過程と苦労

「今までの町史に比べて正しいものができた」と力を込めるのは、編纂委員を務めた藤田儲三さん。委員10名が組織する編纂委員会は、事務局職員らが執筆する原稿の精査や史料収集などに尽力し、18回にも及んだ委員会では熱心に議論を重ねました。

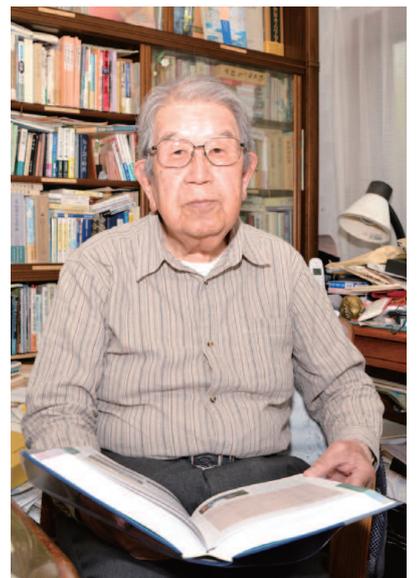
「歴史は昔のことだから、色んな意見や見方がある。それを

すり合わせて一つにするのが一番苦労した」と制作の過程を振り返ります。

史実に基づく新たな町史を

今回特にこだわったのは、確かな史料に基づいて書くということ。例えばこれまでに南予地域で発行されてきた多くの市町村史は、中世に関する史料が乏しいことから「清良記」という軍記物を頼りにしてきました。

「軍記物はあくまで小説。新しい史料も次々と発見されている中で、古文書の記述を中心とした新たな町史ができた」と手応えを感じています。



藤田 儲三しよぞう
1929年生まれ。僧都出身、御荘菊川在住。元城辺町職員。町職員時代には城辺町誌の編纂に携わり、現在は愛南町文化財保護審議会会長を務めています。

歴史を知り、地域を大切に

町史は内容が専門的で、研究者向けと捉えられることも多いのですが、藤田さんは「一般の人にこそ読んでもらわないと。自分が住んでいるところの歴史を知ること、地域を大切にしたり、ここに住んでいて良かったなと思えるようになるのだから」と語りました。

愛南町史編纂委員会

- 委員長 藤田 儲三しよぞう
- 委員 山下 和隆わかつた
- 委員 岡田 義隆よしかた
- 委員 高田 一正かずまさ
- 委員 増田 幹子のぶこ
- 委員 木村 俊二しゅんじ
- 委員 田中 仁子にんこ
- 委員 多田 温樹ぬるき
- 委員 宮瀬 純樹じゆんじゆ
- 委員 田中 純樹じゆんじゆ
- 事務局 愛南町生涯学習課